

平小學校 卒業式

第一、第二兩校の修卒業證書授與式は二十四日午前九時から舉行したが、型の如く唱歌君ヶ代合唱、勅語捧讀後平第一校中野目、第二校は赤津訓導の成績報告あり、證書を授與した後校長の告辭、來賓の祝辭等あり閉式した。

平小學校 志願別

平第一小學校本年度卒業生尋常科二百三十八名、高等一年修業百三十七名、高等科卒業九十九名の卒業後の志願別左の如し。
尋常 七五 四六 八七 一
高一 三二 二〇 七五 一
高卒 一一 九 一 九
尚ほ實業に従事せんとする者は尋常二七名、高一修九名、高卒七〇名である。

渡邊女史が 裁縫塾

四月から開く
平町柳町渡邊アサ子女史は久しく上野野裁縫女學校長として婦女子の教養に従事して来たが昨年夏同校を辭任し東京に至り更に裁縫に關する興儀を極めて此程歸町し自宅に裁縫塾を開いて婦女子の教養に従ふ事になつた新入所生は来る四月から之を收容し内容の充實を計つた上將來は私立女學校とする方針であるといふが、平地方に裁縫女學校が数多い中で同女の塾は一異彩を放つてあらうと期待されてゐる。

竹取りに行き 感電即死

赤井村大字畑田農相川正行(二二)は二十四日午後二時頃三名で山に竹取りに行き竹を倒す際竹の先が高壓線にふれて感電即死した。

映 畫 界

扶美子と逗子で別れた立花は事件を小説化するべく伊豆伊東にゐるうち、彌生が訪問して妊娠した旨を聞いて、ついに結婚した。扶美子も其の後吉村氏の家で立花に會つてから反撥的に正木との婚約を承諾した。母は早速式を挙げ新婚旅行に出した、併しあくまで氣に染まぬ正木を扶美子は受け入れぬ事が出来る「夫婦」の生活をしなかつた。一方立花も結婚して見ると彌生の話が彼を結核すべき手段として嘘言をついたことを知り、その上彼女の放縱な生活に愛想をつかして永久に別れるべく扶美子との思出深い逗子に來た。これと前後して扶美子は立花の出版した「彼と二人の女性」といふ本によつて彼の心を知つたが今更どうすることも出来ず只彼の思出を忍ぶためその小説を書いた伊豆の伊東へ出て來たのであつた。終に相會する機会もなく永久に別れ、其の生活をしなければならなかつた、こうして「結婚二重奏」は相容れない別々の生活によつて終曲を告げるのである。(平館)

産婦人科専門

婦人科 内科 婦人科 外科 妊婦診察其他一般
産婦人科部長 醫學士 五十嵐雄二
顧問 醫學博士 川添正道
院長 醫學博士 難波 睦
本院主事 賀澤 忠 治
看護婦見習募集 城 共濟病院 平(電話六四一)番

油と味噌 山崎合名會社 東京支店 電話下谷五七三番 振替東京六八三三番

學生帽子 學生生バシ 平町四丁目 ツルヤ商店 電話四百四十四番

支那六神丸 特約店 平町五丁目 山野邊藥局

靴とかばん 御注文は特に勉強 既成品も豊富にあります 平町搔搔小路(役場前) 福山靴店

草野染工場 優秀品の証明 徒弟入用(徒弟契約に付ては年明きに際し有利に御相談申上候) 電話三四八番

牛豚肉特價 牛 中 肉 百 金 三 十 上 肉 同 金 五 十 口 肉 同 金 七 十 豚 肉 同 金 九 十 廉賣王 深谷牛肉店 電話五二四番

オピール錠 咳止の妙薬 藥學博士 丹波敬三先生製藥指導 醫學博士 豊島豊次郎先生動物試驗 特約店 平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

磐城炭礦ノ炭礦 常磐第一ノ 大ナル炭礦 石炭ミコークスの特長 石炭ハ正十貫目一俵金六十五錢也 平町 阿部石炭商店 電話三三七番

病弱、肺病に悩み 賣藥は勿論あらゆる手當をつくすも効果なく悲觀の方には目下大評判の「ツオタル」丸及「カルシウム」吸入器(藤本博士創案)を最後の手段として十日間實驗服用して下さい、必ず再生の喜びを得る事が出来ます。 ツオタル丸九金貳圓 ▲カルシウム吸入器拾金拾圓 社會奉仕 四割引(ホシ膏腸薬に限り) 平町字田町 藥劑士 宇佐美藥局